

キャリアコンサルタントの立場で能力を考える時に、キャリアについての学者であるドナルド・スパー博士の「職業適合性」(下の図参照)は参考になります。この図から、職業に適合するに

ナビゲーター

は、諸能力以外にパーソナリティも重要であること、能力には将来を見据えた「適性」と現在保有している「技量」があることがわかりま

す。ところで、職務遂行能力に

人生100年時代に向けたキャリア開発

その考え方と方法

◆ 10 ◆

は「一般的能力」(どの企業でも通用する能力)と「企業特殊的能力」(特定の企業でしか通用しない能力)があります。前者は経理の知識、労働法の知識など全国共通で、他社に就職しても有効な能力でポータブル(組織外へ持ち運べる)能力と呼ぶこともあります。

後者は勤めている会社の商品知識や組織内の人脈などで、これらは他の組織に行けば通用しなくなるものです。

能力とは何か

終身雇用の場合には企業特殊的能力があれば何とかやっていきましたが、今日のように転職が当たり前の時代には一般的能力が必要であり、これを「エンプロイアビリティ(employability:雇用され得る能力)」ともいいます。

また、必要とされる各種能力は、会社の中で地位が上がるに従い、そのウエイトが変化します。若い下っ端の時には業務遂行能力があればよい

のですが、管理・監督者になれば管理能力が問われますし、経営者になれば未来志向の戦略企画能力が必要となります。しかし、どの世代においても必要な能力は、人間関係能力(ヒューマンスキル)であることに変わりはありません。

【日本産業力カウンセラー協会 会員・キャリアコンサルタント・社会保険労務士 杉本 和夫】

(火曜日に掲載)

他社で使える 自社でしか使えない

■職業適合性

